校長研修だより１５３

「いじめのロールプレイ」

2024・5・24　重枝 一郎

実感を伴うロールプレイである。学年集会等で，一部の代表生徒で，全体に見せるやり方もある。その際，実際に行った生徒に，感想を言わせる。その後クラスで，「いじめのないクラス」について話し合わせる。

「いじめられ役」として１人，「いじめる役」として３人，その後ろに「傍観者役（観衆役）」として６人，他の生徒もその場で「傍観者」という設定で，「いじめの４層構造」をつくる。「いじめられ役」の人に向かって，「いじめる人」，その後ろに「観衆」，「傍観者」は他の生徒全員になる。

（「いじめられ役」と「いじめ役」の距離は 1.5M，「観衆」は「いじめ役」のすぐ後ろで顔を見せるようにして立つ）

言葉でいじめるのは禁止である（これはキケン）。目と表情だけでいじめるロールプレイをする。場面を変化させ３回ロールプレイを行う。その際，それぞれの役の生徒にコメントを言ってもらう。

【図 A】まず，最初のシチュエーションは「１対３＋６」である。

コメント例として，「いじめられ役」は，「とても怖くて，目を合わせられませんでした。悲しい気持ちになりました。後ろにいる人たちの方が怖かったです」。「いじめ役」は，「悪いような気もあるけど気は大きくなっていました」。「傍観者」は，「自分は関係ないから安心感があった」などと話す。

【図 B】次のシチュエーションは，「１＋３対３＋３」になる。

「先生が人権学習をしたので，６人のうち３人が移動します」と言って，「いじめ役」の後ろの６人のうち３人が，「いじめられ役」の後ろに立つ。そして，最初と同じように目と表情でいじめるロールプレイをする。「いじめられ役」は明らかな変化を感じる。

「いじめられ役」のコメントは，「あまり，怖くなくなりました。目を見ることができました。人が後ろにいると安心し，心強く思いました」。「いじめ役」のコメントは，「後ろに人がいるから視線が分散され，さっきよりは気持ちが弱くなっていました。後ろの人の目線が気になりました」などと話す。

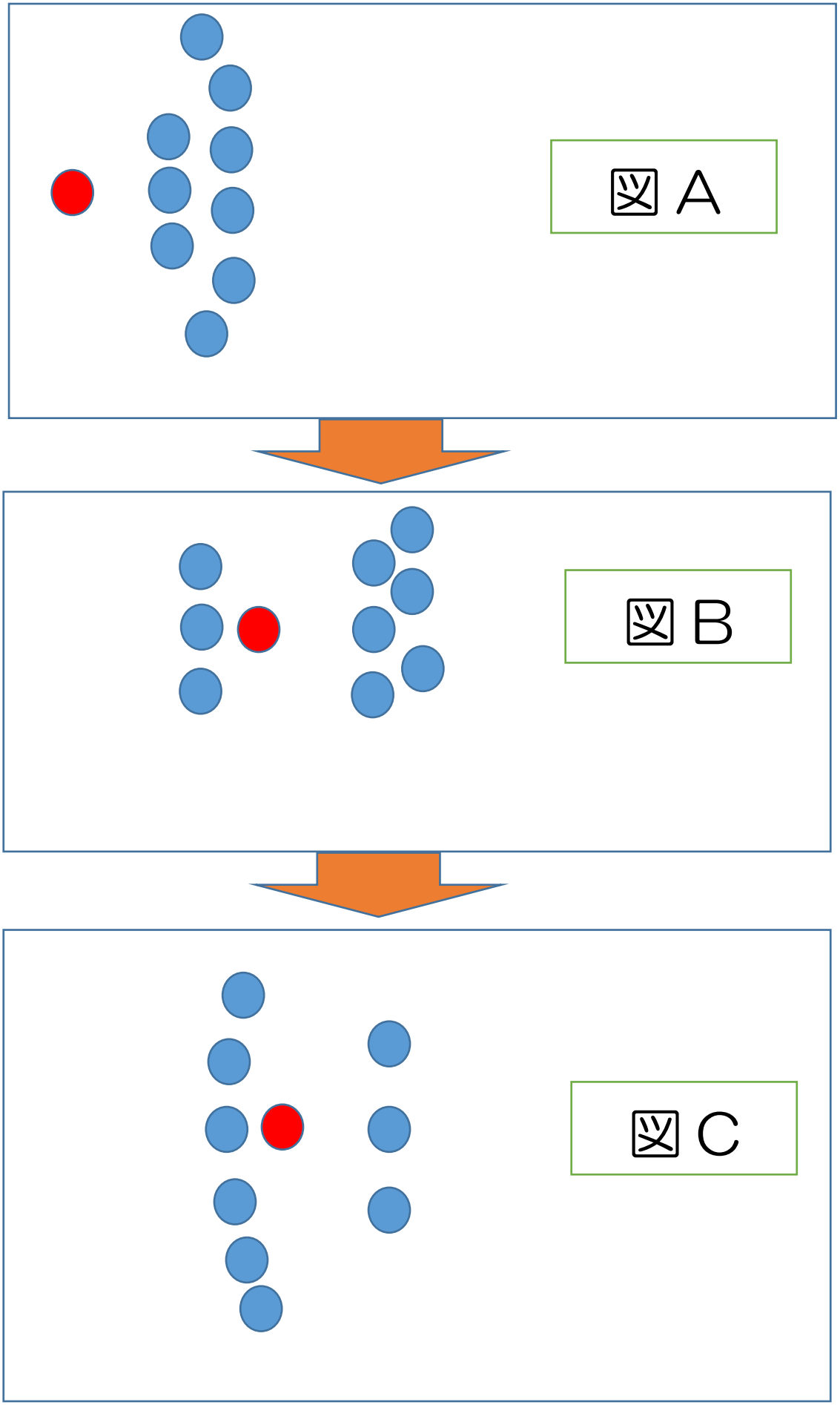
【図 C】最後のシチュエーションは，「１＋６対３」になる。

「先生がもう一度人権学習をしました」と言って，「いじめ役」の後ろの３人にも，「いじめられ役」の後ろに移動する。そして，同じロールプレイをするが，「いじめ役」３人が不安な表情になる。

「いじめられ役」のコメントは，「まったく怖くなくなりました。でも今度は自分がというか，自分たちが３人をいじめているような気持になりました」。「いじめ役」のコメントは，「怖いし，苦しいし最初と全く違う気持ちです」などと話す。

結局，「いじめ役」がどんどん苦しくなるという仕掛けである。

このロールプレイは，「観衆・傍観者がいじめられている人の味方になり，それが増えるといじめが止まる」ことを実感させるのが目的になる。つまり，いじめはクラス全体の問題であることを認識させることができる。だから，いじめ問題はクラスの問題になる。


図A
図B
図C